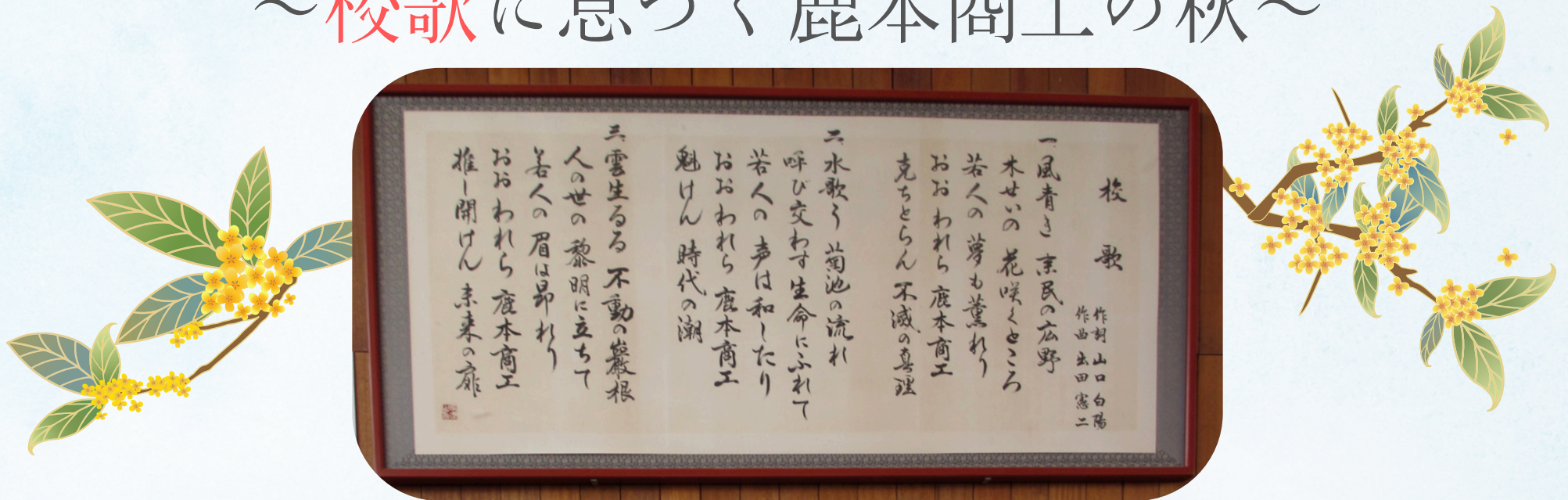


商工まるわかり通信 No.18

金木犀の香りに包まれて ～校歌に息づく鹿本商工の秋～



いま、鹿本商工高校の校内は**金木犀（キンモクセイ）**の香りに包まれています。

その甘くやさしい香りは、秋の訪れを告げる合図。

そしてこの香りこそが、本校の**校歌が生まれた原点**でもあります。

作詞を手がけた詩人、**山口白陽先生**が来校されたのは、ちょうど金木犀の咲く季節。

玄関で開口一番に「**木犀（モクセイ）が、いい香りですね**」と語られ、
その言葉が校歌の冒頭「風青き来民の広野、木せいの花咲くところ」に結実しました。

1番は新入生の希望を、**2番**は菊池川の流れに重ねた成長を、
3番は不動岩のように未来へ羽ばたく力強さを――。

校歌は、来民の自然と若者の歩みを描いた“**成長の詩**”です。

いま、校内に咲く金木犀の香りは、創立当時と同じように生徒たちを包み、
変わらぬ学びの精神をそっと伝えてくれています。